

ニュースレター
平和の種

編集・発行 平和の種をまく会

平和を希い、
平和を語り、
平和のために
力を合わせる



101 号
2022.11.13

戦争と放射能

小出 裕章（元京都大学原子炉実験所助教）

何のために戦う？

人は何を求めて戦争をするのだろうか？ 敵が攻めてきたから応戦する。敵が攻めてきたら困るから先に攻め込む。自国の安全を守るため。世界平和を作るため。様々に言われてきたし、今も言われている。

戦争とは、国家の軍隊同士が戦うことである。国家の軍隊の兵士は自由な意志を持つことを禁じられる。そうしなければ、軍隊という組織は成り立たない。兵士は上官の命令の下、1個の機械となって相手の兵士を殺す。相手の兵士も同じように1個の機械となって命令どおりに敵を殺そうとする。兵士は、相手の兵士の周りにも自分と同じように家族も恋人もいて、普通に生活してきた人であることを忘れる。

近代の戦争では、兵士以上に非戦闘員が犠牲になる。空から爆弾が降ってくる。住んでいる家・街が無差別に破壊され、生活が根こそぎ破壊される。肉体が傷つけられ、時には命も奪われる。それは、こちら側の国に住む人も、あちら側の国に住む人も同じである。多くの人にとって、日々の何気ない平穏な生活が続くことが幸せというものだろう。でも、そう思っている人同士が、国という単位に絡めとられて憎みあう。

戦争は、どんな理由があってもしてはいけない。人間が自由な意志を持って存在することを許さない軍隊は持つてはいけない。喜んで兵士になってはいけない。国家によって強制される時には、それを拒否することも必要と私は思う。

また、戦争を支える武器など作ってはいけない。それを作ってカネ儲けをしようとする軍需産業など、まずは禁止しなければいけない。

ロシアによるウクライナへの武力侵攻

2022年2月24日、ロシアがウクライナに軍事侵攻を始めた。国家が別の国家を軍隊で攻撃することはしてはいけない。ロシアの行為は必ず非難されるべきだ。そのことについては、明白に表明しておく。しかし、どのような出来事も、歴史の流れの中で起きている。一つ一つの行為だけを取り出して非難するだけでは、望む未来は作り出せない。

今、日本を含めた西側世界では「ロシアが悪い」「プーチンが悪い」の一色で、「敵が攻めてきたら困るから」軍備を強化しようだの、軍事同盟を強化しようという意見が強まってきた。しかし、本当に必要なことは戦争そのものを無くすことなのである。

今回ロシアがウクライナへの攻撃に踏み切った理由は2つある。

一つは 1991 年にソ連が崩壊し、同時に軍事同盟であるワルシャワ条約機構を解体したのに対して、西側の軍事同盟である NATO（北太平洋条約機構）はそのまま生き延びた上、ワルシャワ条約機構に属していた国々を次々と取り込み、ウクライナすらが NATO に加盟しようとしたことである。

二つ目は、ウクライナという国の内部の問題である。選挙で正当に選ばれた親ロシア政権を 2014 年の武力クーデターで倒した親西欧政権が脱ロシア化を進め、国内でロシア語を使うことを禁じた。言語の使用を禁じることは、そこで育ってきた文化そのものを潰すことで、犯罪と呼ぶべきことである。

ドニエプル川東岸は親ロシア人が多く住む地域で、抵抗する住民に対して、ウクライナ政府はネオナチの私兵・アゾフ大隊を使って暴力的に弾圧した。そのため、ドイツとフランスの仲介の下、東部の州に対して自治権を与えるべきだという「ミンスク合意」が 2014 年と 2015 年に成立した。しかし、ウクライナ政府はそれを守ろうとしなかった。文化を破壊され、差別され、武力攻撃を受ける東部の住民たちはロシアに助けを求めた。

戦争で大切なのは情報をコントロールすることである。国家は自分に都合の良い情報を、偽情報にせを含め国内外に流し、戦争を進めようとする。第2次世界戦争の日本でもそうであった。そして今、日本を含め西側世界では、西側世界に都合の良い情報だけが流されている。もちろんロシアでも同じで、ロシアの好む情報しか国民に与えられない。でも、大切なことは戦争そのものを終わらせることなのである。一方の国に武器を提供することではない。一方の国の大統領を国会で発言させることでもない。

私の友人・知人の多くはロシアを批判し、ウクライナ国旗を持って街頭に立ってきたし、今でもそうしている人がたくさんいる。でも、守るべきは人々の生活であり、人々とはウクライナにもロシアにもいる。ロシアは悪、ウクライナは善という仕分けではなく、どちらの国にも生きている人々の平穏な生活を取り戻す行動こそ、必要なことである。

ロシアがウクライナに攻め込んで以降、米国が膨大な武器をウクライナに提供し、戦争を煽あおっている。米国は世界最大の軍事国家で、米国が費ついやしている軍事費は、世界の軍事大国 10 傑けつの 2 位から 10 位までを合わせてもまだ届かない。世界の軍需

産業の1位から5位までは米国企業であり、100傑迄の売り上げの55%は米国軍需産業が占めている。米国は、もともとはソ連という、同じ国であったロシアとウクライナを戦わせて両者を疲弊させようとし、米国の軍需産業はこの戦争で大儲けしている。その片棒を担ぐような行為は決してしないと、私は私に言い聞かせている。

原発が抱える危険

私が今この文章を書いている2022年秋の段階で、ウクライナにあるザポリージャ原発をロシア軍が占領している。そこが砲撃され、日本のマスコミでは、ロシアとウクライナのどちらが砲撃しているか分からないかのような情報を流している。しかし、自分の軍隊が占領している場所に砲撃を加える軍隊はない。砲撃しているのはウクライナ軍であり、ザポリージャ原発をロシアの占領から奪い返すための情報戦を仕掛けているのである。IAEA（国際原子力機関）も、砲撃している軍隊の問題を敢えて無視し、ロシアの撤退を勧告した。

原発とは、ウランを核分裂させて発生するエネルギーを電気に変える機械である。ウランを核分裂させるという点では原爆と同じである。そして、1つの原発が1年間に核分裂させるウランの量は原爆に比べれば1000倍以上も多い。運転中の原発は日々ウランを核分裂させ発電し、同時に生み出した核分裂生成物（死の灰）を原子炉の中に溜め込んで行く機械である。その原子炉が破壊されれば、破局的な被害が出ることは当然である。

2011年3月11日に福島第一原発で起きた事故では、原子炉内に溜まっていたセシウム137（人間に最も危害を加えると私が考えている放射能）の約2%が大気中に放出された。ただし、そのうちの約8割は偏西風に乗って太平洋に流れ、日本の国土に降ったセシウム137は約2割だった。つまり、原子炉内に溜まっていたセシウム137の0.4%だけが日本の国土に落ちた。それでも、東北地方、関東地方の広大な地域が、法令を守るなら「放射線管理区域」に指定して一般の人々の立ち入りを禁じなければならないほど汚染された。

日本政府は事故当日「原子力緊急事態宣言」を発令し、被曝に関する法令を反故にし、放射能汚染地域に人々を棄てた。多くの日本人はすでに忘れさせられているが、「原子力緊急事態宣言」は12年近く経とうとする今も、解除できないまま続いている。棄てられた人々は被曝しながらの日常生活を強いられている。

ザポリージャ原発は100万kWの原子炉6基を抱えるヨーロッパ最大の原子力発電所である。それが破壊されれば、広大な大地が汚染される。特に汚染されるのは親ロシア派住民が住むウクライナ東部、そしてロシアである。そのため、ロシアが

軍の命令としてザポリージャ原発を破壊することはないはずだと私は思ってきたし、今でも思っている。しかし、戦争では何が起きても不思議でない。原発は戦争が起きた時の最大の脅威になる。

日本では、歴代の自民党政権が、悪い国が攻めてくると言って軍備を強化してきたし、軍事費を2倍に増やすだの、米軍の核兵器を共同運用しようなどと言う主張が出てきた。でも、本当に「悪い国が攻めてくる」ことを心配するなら、何よりもまず原発を廃止すべきなのである。

生き物と放射能

地球が生まれたのは46億年前、生命が生まれたのは40億年くらい前だと言われている。当初は原始的な生物だったのだろうし、生物とは言えないウイルスもその頃から地球にいたのだろう。その後も、絶滅しては新たな生物が生まれ、そしてまた絶滅するという歴史を繰り返してきた。

人類と呼べるような生き物が生まれたのは700万年前、現生人類の祖先であるホモサピエンスの誕生は20万年前と言われている。今や人類は地球全体を覆いつくすように繁栄し、それ故に地球の生命環境を破壊している。戦争はその破壊行為の最たるものである。その戦争で、原発が破壊され、地球全体が放射能で汚染されることも、現実的な脅威となった。複雑な遺伝情報を持った人類は、放射能で汚染された地球ではおそらく生き延びられないだろう。

1979年3月に、米国のスリーマイル島原発で大きな事故が起き、原子炉が溶けた。事故から7年半経って、ようやく原子炉の蓋を開けることに成功したが、そこで見た光景は戦慄すべきものであった。溶けてぐちゃぐちゃになった原子炉の中に微生物が生存し、なんとどンドンと成長し、繁茂してきたのであった。生命は人間の想像力をはるかに超えてたくましかった。地球の新参生物種である人間が自らの愚かな行為で絶滅しても、地球の運行は続くし、そこに住む生命は新たな生命環境を育む。人間がいなくなった地球の環境は他の生命にとってはむしろ快適なものになるだろうと、私は思う。

しかし、人間には人間の歴史がある。一人ひとりの人間にも歴史と日々の営みがある。それを破壊することを、人間が愚かだと言ってただ座視することも正しいとは思えない。もし人類が生き延びる価値があると思うのであれば、生命体にとって圧倒的に有害である放射能を生む行為、つまり原子力利用を廃絶し、そして戦争を廃絶することこそ必要である。自らを「万物の霊長」と呼ぶ人類は、自らの愚かな行為で絶滅する前に、それを回避する叡智^{えいち}を手にすることができるであろうか？